

## 授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
こころとからだのしくみⅠ	講義	15	30	1	前期	水曜	1限	必修	齋藤 美幸
[科目のねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。									
[科目の概要] 介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころとからだのしくみの基礎を学ぶ。									
[到達目標] ①介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解できるようになる。									
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「こころとからだのしくみ」 (中央法規)					[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	「健康」とは何か				9	脳のしくみ			
2	基本的欲求				10	認知のしくみ			
3	社会的欲求				11	学習・記憶・思考のしくみ			
4	自己実現とは				12	感情・情動のしくみ			
5	自己概念に影響する要因				13	意欲・動機づけのしくみ			
6	自立への意欲と自己概念				14	適応のしくみ			
7	自己実現と尊厳、生きがい				15	授業振り返りとまとめ			
8	「こころ」とは何か				特記事項				
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	90%	5%		/	5%	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験 90%、小テストもしくはレポート5%、課題 5%。			
[教員実務経験] 医療機関で看護師として長年勤務した経験のある教員が、介護技術の根拠となる人体の構造や機能と食事、入浴、排泄等の動作と関連つけて介護のポイントを講義する。									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
こころとからだのしくみⅡ	講義	15	30	1	前期	水曜	2限	必修	齋藤 美幸
[科目のねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。									
[科目の概要] 介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころとからだのしくみの基礎を学ぶ。									
[到達目標] ①介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解できるようになる。									
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「こころとからだのしくみ」 (中央法規)					[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	からだの部位の役割 (細胞・遺伝 身体各部の名称)				9	からだの部位の役割 (骨・関節の動き)			
2	からだの部位の役割 (脳・神経)				10	からだの部位の役割 (筋肉の動き)			
3	からだの部位の役割 (感覚器)				11	からだの部位の役割 (神経系のはたらき)			
4	からだの部位の役割 (呼吸器)				12	からだの部位の役割 (生殖器・内分泌)			
5	からだの部位の役割 (循環器)				13	からだの部位の役割 (血液・体液・リンパ)			
6	からだの部位の役割 (消化器)				14	関連する役割、および薬の知識			
7	からだの部位の役割 (泌尿器)				15	授業振り返りとまとめ			
8	からだの部位の役割 (骨・筋肉)				特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	90%	5%		/	5%	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験 90%、小テストもしくはレポート5%、課題 5%。			
[教員実務経験] 医療機関で看護師として長年勤務した経験のある教員が、介護技術の根拠となる人体の構造や機能と食事、入浴、排泄等の動作と関連つけて介護のポイントを講義する。									

## 授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
こころとからだのしくみⅢ	講義	15	30	2	前期	水曜	3限	必修	齋藤 美幸
[科目のねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。									
[科目の概要] 利用者の身じたくや食事、排泄などの生活を支える介護実践との関係を学ぶ。									
[到達目標] ①生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できるようになる。									
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「こころとからだのしくみ」 (中央法規)					[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	バイタルサイン				9	食事に関連したこころとからだのしくみ (食事のしくみ)			
2	移動に関連したこころとからだのしくみ (基本的な姿勢 ボディメカニクス)				10	食事に関連したこころとからだのしくみ (心身の機能低下が食事に及ぼす影響)			
3	移動に関連したこころとからだのしくみ				11	食事に関連したこころとからだのしくみ (変化の気づきと対応)			
4	移動に関連したこころとからだのしくみ (心身の機能低下が移動に及ぼす影響)				12	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ (入浴・清潔保持のしくみ)			
5	移動に関連したこころとからだのしくみ (変化の気づきと対応)				13	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ (心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響)			
6	身じたくに関連したこころとからだのしくみ (身じたくのしくみ)				14	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ (変化の気づきと対応)			
7	身じたくに関連したこころとからだのしくみ (心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響)				15	授業振り返りとまとめ			
8	身じたくに関連したこころとからだのしくみ (変化の気づきと対応)				特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	90%	5%		/	5%	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験 90%、小テストもしくはレポート5%、課題 5%。			
[教員実務経験] 医療機関で看護師として長年勤務した経験のある教員が、心理学の基礎について多領域にわたり概観し高齢者や障害者の心理について講義する。									

## 授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
こころとからだのしくみⅣ	講義	15	30	2	後期	水曜	3限	必修	齋藤 美幸
[科目のねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。									
[科目の概要] 利用者の身じたくや食事、排泄などの生活を支える介護実践との関係を学ぶ。また、終末期の心身の変化が及ぼす影響、生活支援を行うために必要な基礎知識を学ぶ。									
[到達目標] ①生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できるようになる。 ②人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要な知識を理解できるようになる。									
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「こころとからだのしくみ」 (中央法規)					[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	排泄に関連したこころとからだのしくみ (排泄のしくみ)				9	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ (終末期から危篤状態、死後のからだの理解)			
2	排泄に関連したこころとからだのしくみ (心身の機能低下が排泄に及ぼす影響)				10	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ (終末期における医療職との連携)			
3	排泄に関連したこころとからだのしくみ (変化の気づきと対応)				11	こころとからだのしくみまとめ① (国家試験対策)			
4	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ (休息・睡眠のしくみ)				12	こころとからだのしくみまとめ② (国家試験対策)			
5	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ (心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響)				13	こころとからだのしくみまとめ③ (国家試験対策)			
6	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ (変化に気づくためのポイント)				14	こころとからだのしくみまとめ④ (国家試験対策)			
7	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ (人生の最終段階に関する「死」のとらえ方)				15	こころとからだのしくみまとめ⑤ (国家試験対策)			
8	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ (「死」に対するこころの理解)				特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	90%	5%			5%	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験 90%、小テストもしくはレポート5%、課題 5%。			
[教員実務経験] 医療機関で看護師として長年勤務した経験のある教員が、健康なからだのしくみを中心に、からだのしくみ、からだの構造や機能、老化などについて講義する。									

## 授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
発達と老化の理解Ⅰ	講義	15	30	1	後期	水曜	1限	必修	齋藤 美幸
[科目のねらい]									
人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。									
[科目の概要]									
介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。									
[到達目標]									
①人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解できるようになる。									
②老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援について理解できるようになる。									
[使用教科書]					[授業外学習]				
最新介護福祉士養成講座「発達と老化の理解」（中央法規）					教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	成長・発達の考え方				9	社会的機能の発達①			
2	成長・発達の原則・法則				10	社会的機能の発達②			
3	成長・発達に影響する要因				11	老年期の定義			
4	発達理論				12	老化とは			
5	発達段階と発達課題①				13	老年期の発達課題			
6	発達段階と発達課題②				14	老年期をめぐる今日的課題			
7	身体的機能の成長と発達				15	授業振り返りとまとめ			
8	心理的機能の発達				特記事項				
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	90%	5%		/	5%	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験 90%、小テストもしくはレポート5%、課題 5%。			
[教員実務経験]									
医療機関で看護師として長年勤務した経験のある教員が、発達心理視点で人の発達を誕生から死まで概観し、特に高齢者の心理的变化と日常生活の関係を講義する。									

## 授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
発達と老化の理解Ⅱ	講義	15	30	1	後期	水曜	2限	必修	齋藤 美幸
[科目のねらい] 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。									
[科目の概要] 介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。									
[到達目標] ①人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解できるようになる。 ②老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援について理解できるようになる。									
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「発達と老化の理解」（中央法規）					[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	老化にともなう身体的な変化と生活への影響				9	高齢期に多い疾患・症状と生活上の留意点（呼吸器系・消火器系）			
2	老化にともなう心理的な変化と生活への影響				10	高齢期に多い疾患・症状と生活上の留意点（腎・泌尿器系 内分泌・代謝系）			
3	老化にともなう社会的な変化と生活への影響				11	高齢期に多い疾患・症状と生活上の留意点（歯・口腔疾患）			
4	健康長寿に向けての健康				12	高齢期に多い疾患・症状と生活上の留意点（悪性新生物・感染症）			
5	高齢者の症状・疾患の特徴				13	高齢期に多い疾患・症状と生活上の留意点（精神疾患）			
6	高齢期に多い疾患・症状と生活上の留意点（骨格系・筋系）				14	保健医療職との連携			
7	高齢期に多い疾患・症状と生活上の留意点（脳・神経系）				15	授業振り返りとまとめ			
8	高齢期に多い疾患・症状と生活上の留意点（皮膚・感覚器系 循環器系）				特記事項				
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	90%	5%			5%	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験 90%、小テストもしくはレポート5%、課題5%。			
[教員実務経験] 医療機関で看護師として長年勤務した経験のある教員が、発達心身の視点で人の発達を誕生から死まで概観し、特に高齢者の身体的・心理的变化と日常生活の関係を講義する。									

## 授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
認知症の理解Ⅰ	講義	15	30	1	後期	月曜	3限	必修	野澤 和代
[科目のねらい] 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。									
[科目の概要] 認知症を取り巻く状況、認知症ケアの歴史や理念等について学ぶ。また、認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解する。さらに利用者個々の特性を踏まえた適切なケアを提供するための知識や支援方法、地域で生活する認知症のある人とその家族の支援体制のあり方、多職種連携・協働のあり方について学ぶ。									
[到達目標] ①認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境について理解できるようになる。 ②認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解できるようになる。									
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「認知症の理解」（中央法規）					[授業外学習] 教科書を読み、予習・復習をする 専門用語を理解できるように自己学習を行う				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	認知症のある高齢者の現状と今後				9	認知症の原因疾患と症状・生活障害①			
2	認知症とは何か				10	認知症の原因疾患と症状・生活障害②			
3	脳のしくみ				11	認知症の治療薬			
4	認知症の人の心理				12	認知症の予防			
5	中核症状の理解				13	認知症に関する映画鑑賞			
6	生活障害の理解				14	認知症に関する映画鑑賞			
7	BPSDの理解				15	まとめ			
8	認知症の診断と重症度				特記事項				
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%					試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験100%			
[教員実務経験] 長年、高齢者福祉の現場に携わり、平成24年より通所介護・訪問介護事業所を運営している。介護福祉士、認知症ケア専門士等の資格を持ち、現在も実際の現場で通所介護・訪問介護の支援を行っている。									

## 授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
認知症の理解Ⅱ	講義	15	30	2	前期	月曜	1限	必修	野澤 和代
[科目のねらい] 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。									
[科目の概要] 認知症を取り巻く状況、認知症ケアの歴史や理念等について学ぶ。また、認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解する。さらに利用者個々の特性を踏まえた適切なケアを提供するための知識や支援方法、地域で生活する認知症のある人とその家族の支援体制のあり方、多職種連携・協働のあり方について学ぶ。									
[到達目標] ①認知症の人の生活及び家族や社会とのかかわりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につなぐことができるようになる。 ②認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や多職種連携・協働による支援について理解できるようになる。 ③認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐことができるようになる。									
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「認知症の理解」（中央法規）					[授業外学習] 教科書を読み、予習・復習をする 専門用語を理解できるように自己学習を行う				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	認知症の人を取り巻く状況				9	認知症の人の終末期医療と介護			
2	認知症ケアの理念と視点				10	環境づくり			
3	認知症当事者の視点から見えるもの				11	家族への支援			
4	パーソン・センタード・ケア				12	介護福祉職への支援			
5	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール				13	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア			
6	認知症の人のコミュニケーション				14	多職種連携と協働			
7	認知症の人へのケア				15	まとめ			
8	認知症の人へのさまざまなアプローチ				特記事項				
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%					試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験100%			
[教員実務経験] 長年、高齢者福祉の現場に携わり、平成24年より通所介護・訪問介護事業所を運営している。介護福祉士、認知症ケア専門士等の資格を持ち、現在も実際の現場で通所介護・訪問介護の支援を行っている。									

## 授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
障害の理解Ⅰ	講義	15	30	2	前期	水曜	2限	必修	福應 渉
[科目のねらい]									
障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。									
[科目の概要]									
障害の理解では、障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、多職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。									
[到達目標]									
①障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できるようになる。									
②医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できるようになる。									
③障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなぐことができるようになる。									
[使用教科書]					[授業外学習]				
最新介護福祉士養成講座「障害の理解」(中央法規)					教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	講師自己紹介 講義について 障害とは				9	肢体不自由(運動障害)			
2	障害の概念				10	視覚障害			
3	障害者福祉の基本理念①				11	聴覚・言語障害			
4	障害者福祉の基本理念②				12	重複障害			
5	障害者福祉に関する制度①				13	内部障害①			
6	障害者福祉に関する制度②				14	内部障害②			
7	障害者福祉制度と介護保険制度				15	試験対策			
8	障害のある人の心理				特記事項				
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%					試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験100%			
[教員実務経験]									
障害者福祉施設の介護職員を経験し、准看護師の資格と介護福祉士の資格を取得しており現在は施設長として勤務している教員が、現場で経験した障害の種類や特性などの事例を提示しながら障害についての理解と関係性、ケアについて講義する。									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
障害の理解Ⅱ	講義	15	30	2	後期	水曜	2限	必修	福應 渉

[科目のねらい]

障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。

[科目の概要]

障害の理解では、障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、多職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。

[到達目標]

- ①障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなぐことができるようになる。
- ②障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や多職種連携・協働による支援について理解できるようになる。
- ③障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐことができるようになる。

[使用教科書]

最新介護福祉士養成講座「障害の理解」(中央法規)

[授業外学習]

教科書を読んで予習と復習を行うこと  
専門用語を理解できるように自己学習をすること

回数	授業内容	回数	授業内容
1	重症心身障害①	9	発達障害①
2	重症心身障害②	10	発達障害②
3	知的障害①	11	難病①
4	知的障害②	12	難病②
5	精神障害①	13	連携と協働
6	精神障害②	14	家族への支援とは 家族の介護力の評価と介護負担の軽減
7	高次脳機能障害①	15	試験対策
8	高次脳機能障害②	特記事項	

評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準
	100%					

[教員実務経験]

障害者福祉施設の介護職員を経験し、准看護師の資格と介護福祉士の資格を取得しており現在は施設長として勤務している教員が、現場で経験した障害の種類や特性などの事例を提示しながら障害についての理解と関係性、ケアについて講義する。